

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時、理念を唱和し、共有し実践につなげている。	事業所独自の5つ理念が策定されており、月ごとに一つずつ順番に朝会で唱和しています。昨年度増床時に法人全体のパンフレットも理念を入れて新規に作成しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的に地域のボランティアさんに来ていただき、交流している。保育所との交流会にも参加している。	法人内の特別養護老人ホーム、デイサービスの行事などには利用者が参加させてもらっています。地域の秋祭りでは獅子舞をお願いして来て頂いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	広報誌の発行。 出前講座などで報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回、会議を実施し、利用者の状況報告などを行い、意見等いただいている。	ご家族の代表、地区長や民生委員等の地域住民、町の包括支援センター職員、法人施設長、事業所の主任などが参加して定期的に参加しています。施設運営など多岐にわたり検討し、防災訓練にも参加しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	推進会議、入居検討会議等に町の担当者の方へ出席していただいている。	運営推進会議への参加、高齢者や介護に関する会議などの場で、法人内の担当者や介護支援専門員等とも連携して常に協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リスクマネジメント委員会を中心に身体拘束のないケアに取り組んでいる。	法人全体で、毎年、研修を実施しています。利用者の状態に合わせて、事故防止と身体拘束にならないか具体的に検討し、職員間で周知して取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	学習し取り組んでいる。 利用者への声掛けや介助に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に出席した職員より報告し、学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文章等で伝え、来所時などに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所時、意見等を聞くよう努めている。	家族が来所時は、面会記録簿に記入して頂いています。職員がご家族からのご意見等をお聞きするように努めていますが、事業所として更に努力が期待されています。	建物が棟ごとに独立しており、意見箱の設置や苦情解決のポスター等の掲示場所を工夫し、意見等を言いやすい環境づくりが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や個人面談などで意見を聞き、反映させている。	事業所内の運営に関して、職員会、管理者との個人面談等設定されており、意見が反映されています。法人全体として就業環境について検討しています。記録におけるIT機器活用も、運営における質の確保に繋がります。	就業環境、研修参加と人材育成など職員の意見が、法人代表者への提案、反映される仕組みとなることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	要望書などで職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部・内部の研修会を行っているが、なかなか育てる取り組みができていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修時に交流はあるが、施設見学、勉強会などもっと行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時に本人の意向、希望、不安なことなどをうかがっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所時、ご家族の思い、希望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネの情報や家族等の希望を聞き、支援を検討し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事は職員と一緒にお手伝いしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	病院受診をしていただいたり、連絡を取り合い、良い関係になるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、知人の面会や、外出支援を行っている。	ご家族の協力も得て、個々の外出や面会など支援に努めています。部屋に家族の写真や絵、思い出の品、携帯電話が置かれ、想いを共有するような言葉がけもされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	良好な関係になるよう努めている。レクリエーションや席替えなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後はあまり行えないが、入院していれば面会等に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いをお聞きして、ケアプランに取り入れたり、職員会議等で検討している。	ご家族にお聞きしながら、本人の暮らしを振り返り、趣味を再開するなど寄り添う支援に努めています。自由に塗り絵や編み物など個別の趣味を楽しむ方もおられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時のアンケート、生活歴の状況を見て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録、連絡ノートなどで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	居室担当を中心に、家族、職員で検討している。	毎月の職員会で、介護計画について、全職員で検討しています。利用者によっては独自の工夫した記録様式を用い、職員間で情報を共有して、実践、見直しを実施してケアに取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録、チェック表、申し送り等で情報を共有し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスにとらわれず、その時々状況に対応するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアさんや、訪問美容の方に来ていただき支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診情報提供書を作成し、病院と連携を取っている。	ご家族の同行受診を原則とし、近くの町立病院を主治医とする方が多いが、かかりつけ医はご家族の希望としています。夜間の体調不良時も訪問看護の助言等を受けて、適切な医療受診に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と情報交換し、週1回体調チェック等していただき、受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーにて情報を共有している。 入院中、面会に行き状況確認を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは現在行っていない。 入所時に重度化した場合の説明は行っている。	重度化対応に関する事業所独自の指針を作成し、入居時にご家族などに説明して、同意を頂いています。また、利用者の状況なども、毎月、町を含めた関係者の会議で検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全員が年一度の救命講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域住民とともに、昼、夜避難訓練を行っている。	併設の事業所、運営推進委員などの協力を得て夜間に法人合同の防災訓練を実施し、避難方法など検討しています。職員連絡網の伝達訓練も実施しています。防災訓練での反省から、避難方法を複数想定し、周知しています。	通報訓練の計画的な実施、水や食料などの備蓄や停電への備えなど、訓練だけでなく日頃からの話し合いや備えが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いに注意し、一人一人の気持ちに寄り添った支援を行っている。	職員研修を実施し、言葉遣いについても話し合いをしています。ときには、慣れ親しんできた方言、言い回しなどにも、利用者に寄り添い尊重しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り本人の意見を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人のしたいように身なり、身だしなみを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	希望メニューを聞いたり、できることをお手伝いしていただいています。お盆拭きなど。焼きそばは皆さんで調理している。	棟ごとに独立して調理しています。希望献立や季節に配慮した献立も実施し、利用者の嗜好にも柔軟に対応し、法人内栄養士の助言も得ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	チェック表にて摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	欠かさず、口腔ケアの声掛け、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定期的な声掛け、本人の潜在能力に合わせた排泄支援をしている。	利用者に合わせて、かつ昼と夜間の対応など危険防止などに配慮しながらも、習慣も考慮して対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の配慮や運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	なかなか時間帯など希望に添えていないが、受診日などの時は希望に添えるような対応をしている。	受診日や外出予定などにも配慮していますが、原則、週に2回の入浴となるように取り組んでいます。菖蒲、りんご湯なども楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご自分のペースで行っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を確認したりして、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お楽しみ献立や外出等、希望をお聞きしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	行事として、外出、外食等を行い、家族が受診時に外食などをしてくださっています。	敷地内の他事業所の行事に出かけ、一緒に楽しんでいます。冬季以外は、花見、外出など実施しています。季節によっては、玄関の外でお茶をすることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理はされておらず、職員が預かって対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯持参されている方は自由にされています。 年賀状や手紙のやりとりは行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いた過ごしていただけるよう環境に努めたり、壁画で季節感がわかるよう工夫しています。	天井が高く、開放感があり、窓の位置など眩しさに配慮されています。壁には、季節の飾りが掲示されています。居室の入り口のさりげない目印や手書きのトイレの張り紙など、職員の工夫、心遣いがみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーなどを設置し、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使用していた物を持参していただいたり、好みの物を置いたり、飾りつけ等しています。	テレビ、動物の置物、家族の写真や手書きの絵、編み物や塗り絵の道具など、使い慣れた好みのものが、それぞれ置かれています。ご家族の協力も得て、本人の好みに合わせ、安心できるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	見やすい場所に目印をつけたり、貼り紙などで工夫しています。		